

第二回神奈川ピアまつり！

2018年6月8日（金）18:30～20:45

横浜市開港記念会館講堂

主催：YPS 横浜ピアスタッフ協会

第二回神奈川ビアまつり！ 次第

2018年6月8日（金）18:30～20:45

横浜市開港記念会館 講堂

～～～プログラム～～～

18:30～ ピアまつり青年隊によるオープニング

18:35～ ピアにかける熱い思いリレートーク

出演者（出演順・敬称略）：鈴木仁 小暮勝 榛澤昌高 前田梨夏 平井広喜 田村千秋 井上初男
田代貴紀 吉井正実 阿部憲一郎 山田悠平 桐原尚之 関口明彦 細川慎一
倉澤政江 小山美枝子 横山紗垂耶 鴨下美佳 魚岸実弦 西前英紀 西浦淳一郎
江原顕 昆野祐太 大友勝 杉浦寛奈 近松伴也 荒井拓 青山浩平 種田綾乃
加藤博之 奥原孝幸 蔭山正子 相川章子

19:35～ 出版だ！ピアマスターだ！パレードだ！告知タイム！

19:45～ ピアにかける熱い思いシンポジウム

出演者（敬称略）

シンポジスト：尾山篤史（当事者活動愛好家）

関茂樹（シルバーリボンジャパン代表）

割田大悟（ひきこもり当事者グループ「ひき桜」in 横浜代表）

コーディネイター：福田敏克（福祉新聞）

20:25～ ピアにかけるみんなの思い、ピアまつり青年隊と全体意見交換

20:35～ 最後にピアまつり青年隊とみんなでなんかやろう！

<ピアまつり青年隊>
荒木雅也、白石大介
住友健治、宮下真治

主催：YPS 横浜ピアスタッフ協会

第二回神奈川ピアまつり！への応援メッセージ集

アイウエオ順 敬称略

淑徳大学・YPS会員 伊藤 千尋

いつも「ピア」の仲間に入れていただき、ありがとうございます。
当事者同士というだけでなく、一人ひとりの存在を仲間として受け入れてくださる皆さんの強さとしなやかさに、いつも感動しています。
これからも一緒に、「共生（ともいき）」の輪を広げていきましょう。

きょうされん神奈川支部 事務局長 岩山 みどり

「第二回神奈川ピアまつり」の開催、おめでとうございます。
横浜市開港記念会館という横浜の中心的な場所から、ピアならではの立場だからこそ見えるもの、感じること、行動できることを大いに発揮して、神奈川ピアまつりを盛り上げてください！

株式会社 FVP 代表取締役 大塚由紀子

誰かが誰かを元気にし、そのまた誰かが誰かを元気にする！
「第二回神奈川ピアまつり！」ご盛会をお祈りしています。

特定非営利活動法人 スペースびあ PSW 木村 潔

精神疾患に罹ることはとても不名誉なこととされ、本人や家族はこれを周囲に隠しがちです。当事者性を帯びた者による、社会的抑圧感の漸減を目指した運動の水準を切り上げていく中から、私たちの回復への道が切り拓かれて行きます。外房の地から皆様方の真白な航跡を追い続け、いつの日にか合流できる日を夢見ています。

NPO 法人 海の会 理事長 久間 久恵

第二回神奈川ピアまつり開催おめでとうございます。

日増しにピア活動が活発になり、金沢区の中でも「かなぴー」という名前で昨年からのピア活動が継続して行われています。誰でもが自分自身を受け入れ、他人の影響も受けながら、人間として生まれてきた意味を考えられる楽しいピアまつりになりますよう心から祈っております。

飛鳥病院 医療福祉相談室 相模原市精神保健福祉ボランティアグループひびき 栗木 良枝

YPS の爆発寸前のエネルギー。常に前を向き、後ろをふりかえらず、障害のあるなしに関わらず、全てを巻き込む底抜けの明るさと活力。魅力ある人材達よ。

人と人との障壁を壊し、神奈川を日本を牽引し、世界へ羽ばたいてくれ！
皆に生きる喜びと自由を示してくれ！

岩手在住 YPS 会員 齋藤 大地

開催おめでとうございます！ 遠距離のためなかなか皆様とお会い出来ませんが、パワー溢れる皆様の熱い想いで、盛会になるよう祈っております。

やきつべの径診療所 夏苺 郁子

お久しぶりです！皆さんとの出会いから、2年もたってしまいました。2年の間、皆さんはさらに進化した活動をおられたのですね。ピアまつりのプログラムを見て「すごく元気そう！」と思いました。ピアの力がぐんぐんと伝わってきます。これからも、笑いの力で精神科医療を引っ張ってくださいね！

群馬病院 ピアサポーター 福島 淳子

「人は人によって癒される」と私は信じています。仲間がいる、そう感じられた時、人は力をもらえるものだと思います。ピアの魅力・存在意義はそういったところにあると思います。「ピアまつり」が多くの方にとって、有意義な時間・出逢いの場所となりますように。応援しています！

金沢文庫エールクリニック 藤原 修一郎

近年稀に見る勢いで、たくましく拡大発展していく皆さんの姿勢を身近に感じると、これから景気か良くなっていくような、将来に希望がもてるような、前向きな心持ちになります。早くも第2回目ということ。ピア祭りが賑やかで、楽しい会になるよう願っています。

関東学院大学看護学部 精神看護学 馬場 薫

第二回神奈川ピアまつりの開催、おめでとうございます。

横浜でのピア活動がやがて大きなうねりとなり、日本を動かす力になると信じています。

イベントに多くの人が集まり、多様な価値観や個性を認め合う人々の輪がますます広がることを祈念いたします。

久里浜医療センターリハビリテーション科 作業療法士 三澤 剛

医療、福祉、地域、生活・・・枠組みを越えて、専門領域を越えて生活のしづらさを抱えるひとに寄り添い、リカバリーの風を取り込んでくれることを、こころより期待しています。

NPO)たま・あさお精神保健福祉をすすめる会 理事長 三橋 良子

川崎では今年、第10回びあ活動地域交流会を迎える。この10年、多くの人々がピア活動に参加し、つながり、分かち合い、解き放たれていった。また、多くの人々が悩み苦しみ、病に倒れていった。これまでを振り返り、これからを考える今日この頃、私たちはこの町で一生懸命生きている。神奈川ピア祭りに集う一人一人と、生きている歓びを分かち合いたい。

読売新聞記者 安田 武晴

支え、支えられて、僕たちは毎日なんとか生きている。支えるばかりの人生も、支えられるばかりの人生もない。友達、恋人、夫婦、親子、同僚……。互いに「支えたい」「支えられたい」。そう素直に思える時間を、「第二回神奈川ピアまつり！」で共有しよう。

かもめサポート 山口 徳江

「出会いの場」を限りなく創り続けている『シャロームの家』の皆様、参加者ひとりひとりの役割と責任が、視えて感じられていいですね。この『にぎやかな革命』が、未だに『夜明け前』の精神保健福祉分野に切り込んでくるのか、真の平和をもたらすことになるのか、楽しみに見守っています。

埼玉県立大学 教授 横山 恵子

第二回神奈川ピアまつり、おめでとうございます。当日は、ピアの熱い思いを爆発させて、その底力を、ぜひ示してください。皆様の活動には、埼玉県在住の支援者として、いつもエネルギーを頂いています。こうした活動が全国の仲間に広がることを、心から期待しています。

私たちの目指す社会

HPKA 実行委員 Jin Suzuki

ひとりひとりの個性に焦点を

私達の暮らしている世界は資本主義・貨幣経済を中心に成り立っています。その中では必ず持つものと持たざる者、勝者と敗者、搾取する側される側が生まれます。人類の発展・生産性の向上の為に一定の役割を果たす一方で、競争に敗れば敗れるほど、生き辛さを挽回する為に必要なエネルギーが大きくなる事で、時にその意欲まで萎えさせられるような側面を持つ社会と言えます。

確かに、法の定める社会保障を拠り所にいわゆる最低限の生活は保たれているのかもしれませんが、しかしその制度なり保障には当然枠があり、その枠の中での拠り所があるだけで、人々の持つ様々な困難に適正に対応することは出来ません。私は所謂多数派の人々が、人の持つ様々な個性や困難といった多様性を本質的に認め尊重しない限り、民主主義・市場原理だけで社会的弱者、少数派のニーズを汲み取り、一人一人が持つ可能性を十分に発揮出来る社会を実現する事は困難であると考えます。

現行の社会資源を利用した福祉の枠組みは、支援によって生活の場を構築しているという見方もできますが、悪く言えば困難を抱えている弱者を単に一括りにして社会にとって都合の良い場所に組み込まれているだけの様にも思えます。

今になって感じるのは、社会的弱者の困難等に関する知識教養をお持ちなのは福祉に関わり・関心のある方々ばかりで、以前の私自身も含め、社会の多くの方々はその導入的な知識すら欠如しているのではないかとと思われる事です。

私自身も、自らが困難に直面して初めて、精神疾患や様々な障害・困難を抱える事に対する知識・関

心を持ちました。そして、体験しないと理解し得ないであろう経験もしてきたと思います。

私は一度、困難により一般的な就労を断念し、医療・福祉等を利用しながら生活設計の立て直しを図りました。その過程で福祉等の社会資源や障害者雇用等の枠組みの中では範囲が狭すぎて、未だに納得出来る社会参加の形は見えてきていません。また、言い方は悪いですが、困難を抱えていることだけを理由に社会から低い評価しか得られない事が受け入れられません。また、お恥ずかしい話ではありますが得意な能力についてのプライドや自信が大きい面が、社会参加において障壁の1つになってしまいます。

私は同じカテゴリーの困難を抱える様々な方々を見て来ました。既存の社会資源の中で活躍されている方々も一定数いらっしゃいます。しかし、枠内に収めるだけの社会参加の形では達成し得ない様々な困難や個性があり、その選択肢の乏しさが各々の持つ可能性を伸ばす機会を損失している側面も否定できないのではという考えに至りました。

私は、現行の福祉政策の範囲では問題点を真に認識し、または解決・改善するには至らないであろうと感じています。

困難を抱える人々の力を十分に発揮させ社会に還元する為には、行政・福祉・企業・当事者等がより包括的に連携し、画一的な基準で枠組みに当てはめず多様な困難を精査し社会の包容力を高め、各々の個性を社会の中で効果的に活かすための新たな社会システムを構築する必要があると感じています。 **だれもが持っている**



ピアにかける熱い思い2018!!

百合丘地域生活支援センター ゆりあす
ピアスタッフ 小暮 勝

川崎市麻生区百合丘2-8-2
北部リハビリテーションセンター2階
TEL:044-281-6641

1. 川崎のピアの交流を!

川崎にも沢山のピア活動を行っている人達があります。
また、ピア活動に興味を持っている人達も沢山います。
年1回ピア活動地域交流会を行っていますが、それ以外にも現在ピアとして働いている人達の交流も進めていきたいと考えています。

2. ピアが活躍できる仕事を!

ピアが活躍できる場を広げていき、お仕事としてやりがいを持てる様にしていきたくと考えています。

- ・地域移行・定着支援のチームにピアも必ず参加していく!
 - ・それぞれの特技や能力を生かせる仕事を探す!
- 等々ピアが活躍できる仕事を増やしていきたいと考えています。

☆ゆりあすの取り組み

◎受付業

受付で皆さんをお出迎えしています。
また、メンバーさんとのコミュニケーションも!

◎ピア活動地域交流会

毎年1回川崎のピア活動を行っている人達や興味を持っている人達を集めて交流会を行っています。前年度は夢や趣味を語り合いました!今年度は、記念すべき10回目!楽しい企画を考えています。

◎退院応援ミニバスツアー

地域の病院に入院中の方や病院関係者をジャンボタクシーで法人内事業所(地域生活支援センター、地域活動支援センター、グループホームなど)に見学案内しています。

入院中の方達に退院後の不安を減らし、地域で暮らしたいと思うきっかけになれば良いと思っています。

◎ふれあう訪問ミニバスツアー

地域福祉に興味のある方対象に区内(多摩区、麻生区)の障害者福祉事業所をジャンボタクシーで訪問し、見学及び利用者の方との交流を行っています。

障害者理解のための普及活動に取り組んでいます。

◎ピアサポート活動を学ぶ見学研修

先駆的にピア活動を行っている事業所を見学したり、学術大会に参加する事で、ピア活動の見識を広げ、今後のピア活動に生かしていきたいと思っています。

前年度は横浜ツアーとして、シャロームの家、森の庭、磯子区生活支援センター、すべいろやはらからの家に、伺いました。今年度も計画中です!

◎SKYピア派遣事業

新しい事業として準備中です。ピアに法人内の各事業所のお仕事をお願いし、活躍してもらおう事を考えています。

一般就労は厳しい、無理だと思っている人も含めて、仲間のために役に立ちたい、仕事してみたいという人達(ピア)を増やしていきたいと思っています。

神奈川ピアまつり リレートーク

「ピアにかける熱い想い」

あしたば会 はんざわ まさたか
榛澤 昌高

【プロフィール】

- 診断名は統合失調症（あくまでも診断名で本当のところは分かりません）
- 横浜ピアスタッフ協会（YPS）には、一昨年（2021年）の7月に入会
- 趣味 スポーツ（行うのも観るのも） 歴史 ひとりカラオケ オヤジギャグ
- 好きなタレント 浜辺美波 吉岡里帆 AKBと乃木坂は箱推し
- 好きな食べ物 かつ丼 バニラヨーグルト チョコラスク
- 好きな言葉「善で温められた心は決して冷めない」ウクライナの詩人シェフチェンコ
- 引きこもりから脱してピア活動に出会ったことがリカバリーの契機

【ピアサポートとピアスタッフ】

- ピアサポート
 相模原市精神障がい者仲間の会（あしたば会）という自助グループでピアサポート活動に取り組み、相模原市内や市外の他の自助グループの集いにも参加し活動しています。シャロームの行事にも、たまに参加します。
- ピアスタッフ
 八王子市の通所生活訓練施設とグループホームでピアスタッフとして勤務しています。
- ピア活動は自分の世界を広げてくれて、“居場所”と“要場所”が得られました。

【相模原市精神障がい者仲間の会（あしたば会）】

- 「ひとりぼっちをなくそう」というスローガンを掲げて平成5年に設立し、精神障がい者の理解促進・権利擁護・居場所作りを行っています。今年25周年を迎えました。
- 主に相模原市の当事者、家族、ボランティアなどを中心に80名の会員がいます。
- 主な活動 BBQ大会、新春の集い、クリスマス会、フリースペース、語り合いの集い、講演会、フットサル、市の審議会・協議会参加、機関誌発行などを行なっています。ホームページもあります。

横須賀・三浦・逗子・葉山・鎌倉エリア 担当事業所の 4

地域生活サポートセンター「とらいむ」です。

活動先

メンタルホスピタル
かまくら山

グループホーム 萌木

1期生から

3期生まで

活動中！

それぞれ年3日程 訪問させていただいています。

退院促進と茶話会で おやつを食べながら

交流を深めたり、お題(テーマ)についてディスカッションを通して

刺激を受けたり、地域での生活の話をしたりしています。

依頼があれば体験発表もしています。



ちーむ名

「ほんさほ」

名前の由来

みんなが「ほん」になれるように

「きほーと」し合う

← キャラクターの

「ほんねこ」です。

神奈川ピアまつり！リレートーク

「平塚でのピア活動について」

井上 初男

現在、私の生活の中心になっているのは、詩をつくってネット上にイノウエアツオのペンネームで発表すること、患者会活動、ピア活動、野球観戦です。どれもお金にならないことですが、自分では意義があるんだと思って取り組んでいます。

ピア活動をしていると、不動産屋と行政が手を組んで長期入院者の退院を進めていく事例を聞くので資格取得を目指して民法を勉強していると昨年言いましたが、自分はもう若くはないし、晩学に独学では、いかにも苦しく、はかばかしく進みません。基礎は若いうちにタタき込まないと身につかないということを実感しています。

平塚のピア活動は、8年前にスタートしました。保健所主催の家族教室や家族会など関係団体に向けて普及啓発を目的とした体験発表を中心に活動しています。

昨年の2月からピアサポーターとの交流会と銘打って、隔月で病院訪問を行っています。初めの頃は退院するにあたって、こんなことが気になるのではないかと考えられるテーマでピアが話を用意して、それをお話して質疑という形式で行って行きました。次第に入院患者さんから、ご本人のお話だったり、ワーカーさんが、この人がこんな話をするのを初めて聞いたということが増えてきました。

最近では入院患者さんが知りたいこと、質問したいことをフリートークキングしています。ちょっと続いたので、次回7月の交流会では、入院時、退院生活、これが出来ないというテーマで、ピアが話を用意する形式で行うことになりました。病院職員さん達だけだと患者さんたちは話をしてくれないけれども、ピアがいるだけで話をするようになったとワーカーさんから聞きます。ピアが真剣に入ることで、入院患者さんの真剣な反応が返ってく演出は出来ていると思います。

個別給付の枠組みで退院につながった方は、まだいません。誇れるような実績はありません。それでも退院生活に入院患者さんたちが関心を向けてくれるという“手応え”はなくてはなりません。退院に結びついていなくても、ピアが病院訪問している効果はあると思っています。地道ですが、患者さんとゆっくり関わる中で、少しずつ退院生活に興味をもってもらう取り組みを続けてゆきたいと考えています。

成果が上がらず、意気も上がりませんが、逆境にめげずに張り切ってやってゆきましょう！AAO、ABO。ここでAAOとは掛け声のエイエイオーです。ABOとは何か。血液型は、精神障がい者、健常者区別なく全員AとBとOで成り立っているところから全員で平等にという意味を込めました。当日やってみるので、おもしろいと思っただけ方は、ぜひご唱和ください！

私のピア活動と今後の目標

ピア活動を正式に初めたのは、2015年11月頃ほっとステーション平塚という事業所が県の委託を受けて、ピアサポーター育成していると言うので研修期間を経て正式に2016年4月に登録になった。

またその前には家族会の活動に参加したり、コンボ主催のリカバリーフォーラムや様々な講演会などに行ったり、昔から障害者福祉の本をけっこう読みあさっていたりして、今後将来的には、ピアの活動は、注目を集めるだろうと思っていた。

今まで、保健所、家族会での体験発表、元町茅ヶ崎とのピアさん達の研修会などその他もろもろである。

私は、今年は、1月から職業技能訓練である、トライを受講した。理念ながら、父の体調が崩れて、思うように出席できなかったが、トライでお世話になった講師たちは、自分で病気を持っている当事者つまり、ピアスタッフであった。

3ヶ月の受講を経て、それなりに得るものは、多々あった。私もこのようなトライ講師のような、障害者と密に接するような仕事がしたいという思いが強くなった。

私が思っている事は、私みたいに正規の仕事は、現在していないが、外に出て活発に動いている人達などが、逆に、入院したり、引きこもっている人、家で何もせずもんもんと過ごしている人を、それをもっと地域社会が受け入れ、障害者が社会で生きやすい生活を送ることができる、これが今ピアサポーターといわれる人生のある意味仕事では、ないだろうか？

ノーマライゼーション、共生社会、今は、まだ理想かもしれないが、今後10年、20年と自分なりに、努力していきたいと思っている。

私は、夢は、言うまでもなく、精神に限らず障害の方全般と接する、ピアスタッフである。

私も今年で46歳になるが、人生の半分は病気している、人生のほうが長くなってしまった。

今回は、当事者の1人として、この精神障害分野において、先ほども少し触れたが、障害者が、いきいきと生きていてよかったと思えるような、地域社会を、努力、研さんしていきたい。

神奈川県平塚市南中田 589-4

田代 貴紀

所属

大磯

ほっとステーション平塚

(ピアサポーター登録)



ちがさき 市の情報
えぼし麻呂 & ミーナ

ちがさきし
茅ヶ崎市



もとまち いえ
地域生活支援センター 元町の家

ピアサポーター活動 について

人数は少ないですが、



無理せずマイペースで

ほっこりやっています!!!

☆ピアサポーター 3名（女性2名、男性1名）

☆主な活動… ①定例会…毎月1回みんなで相談しながらやっています！

②病院訪問（病院職員研修・長期入院患者個別支援）

③体験談発表等：・茅ヶ崎市保健所統合失調症家族教室・自立支援協議会よるカフェ

・地域の法人の新人研修・地域の民生委員、児童委員の研修

・認定調査員研修・ヘルパー研修

④スキルアップ研修：・他地域ピア定例会見学、意見交換等・リカバリーフォーラム参加

⑤交流会：・他地域ピアサポーターとカラオケ大会・ハートフルメッセージ

☆地域生活支援センター元町の家 茅ヶ崎市元町 16-3 ☎0467-82-1685☆

手一いせんとらる

紹介

神奈川県県央地域のピアサポーター集団（相談センターゆいまーるに所属）

2010年に結成（但しチーム名命名は2011年）

2018年現在のピアサポーター数 24名

定例会 月に1度開催（平均出席人数10名以上）

主な活動

講師派遣

神奈川県主催障害支援区分認定調査員研修

かながわ福祉サービス振興会主催神奈川県精神障害者ホームヘルパー養成研修

厚木保健事務所大和センター主催家族教室 等

病院訪問

医療法人社団青木末次郎記念会 相州病院（年4回）

研修会参加

平成29年度神奈川県地域移行・地域定着支援事業研修会

会議出席

精神保健福祉センター主催地域移行・地域定着支援事業委託事業者連絡会

精神障害当事者会ポルケ 活動紹介

○活動の取り組み

精神障害当事者ポルケは、2016年夏に発足した精神障害当事者によって運営される障害者・当事者団体です。東京都大田区やその周辺地域で、月例の交流会「お話会」や学習会を開催してきました。昨年度は、「私たちとは何者か」をテーマにして、連続学習会を開催しました。（「ピア・カウンセリング」「当事者運動の歴史」「ピアスタッフから学ぶ支援」）それぞれお陰様で、盛会に終えることが出来ました。最終回では、YPSの堀合さまはじめ皆様にご登壇いただき、それぞれのご経験からコメントをいただくことで、大変好評をいただきました。改めてありがとうございます。



私たちの会は、「気兼ねない交流の場」と「社会アクション」について、分けて場を設けてきました。私たち精神障害といっても様々であり、体調はさることながらモチベーションも一様ではないので、（それはむしろ「健全」ですが。）あくまで交流を楽しむことと、それぞれの会員の悩みを行政・施設に問い合わせたり、社会啓発を行う活動を切り離すことで広がりをつくってきました。インターネット経由で参加する方も多いのですが、活動をすすめるなかわかったのが、想像以上に日頃において福祉支援や病院等で当事者同士のつながりがあるひとばかりではありません。孤立している人が大勢います。職場やときには家族にも自身の障害を隠しながら暮らしている人もいます。

一方で、私たちの障害は「目に見えない障害」「わかりにくい障害」と評されることが多々あるように、偏見や差別はまだまだ根深く、カミングアウトのタイミングや場所によっては苦節を味わいます。私たちは、私たち自身のこと、私たちの考えをもっともっと社会に訴えていく必要があります。人権の希薄さが目立つ昨今の日本においてそれは、私たちの役割とすら思います。

今後、ポルケでは精神障害理解のプログラム開発と実施、精神障害への合理的配慮の在り方について様々な暮らしの状況から事例を積み重ねていくことを活動の基本とし、広く社会に発信していきます。よろしければ、ホームページ(右記 QR 参照)見ていただくと嬉しいです。本日は開催おめでとうございます!(^^)

～～地域で実施する・連携するイベントのご案内～～

「大田区の障害福祉を共に考える おおたフォーラム2018」

日時:7月7日(土)11:00～15:30 場所:大田区立障がい者総合サポートセンター

※主催:おおたフォーラム2018実行委員会

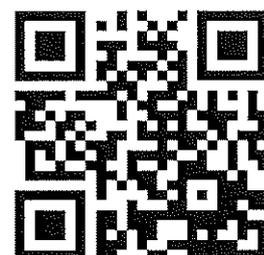
「精神障害者がもっと無理なく楽しく働くために 一私たちが提案すべきことってなんだろう?」

日時:7月8日(日)14:00～16:00 場所:東京大学駒場キャンパス内教室(調整中)

都政学習会 in 大田区 ～都議会議員選挙から1年がたちました～

日時:7月28日(土)13:30～16:00 場所:大田区立消費者生活センター 大集会室

※主催:都議会の役割を考えるおおた実行委員



桐原尚之

青森県出身。京都市に住民票があるが住所不定状態。2002年頃からセルフヘルプグループにかかわる。2004年、全国「精神病」者集団入会。2006年2月、全国「精神病」者集団運営委員就任し現在に至る。2012年4月から立命館大学大学院先端総合学術研究科に在籍。2017年4月、第193回通常国会参議院厚生労働委員会において精神障害者で唯一、参考人を務めた。

【運動における主たる実績】

- ・青森市の移動支援の地域指定の撤廃を実現した。
- ・障害者施策における政策決定過程からの精神障害当事者参画の実質的な推進をしてきた。
- ・国連アジア太平洋社会経済委員会による第三次アジア太平洋障害者の10年の交渉に取り組み、作業部会委員に精神障害当事者団体を入れることを実現した。
- ・大衆の運動形成と集中ロビーイングにより2017年精神保健福祉法改正の阻止を果たし、実質的な法律案の変更・出し直しを実現した。（他、多数）

【略歴】

12歳のときに首を頻繁に絞めるようになる（酸欠依存）。その後、特定の行為をしなければ15歳で死んでしまうと思込むようになる（被害妄想）。当該特定の行為は過去に告げられたものであり、それを思い出さなければならぬと思込む（妄想）。思い出そうとすると事実ではない記憶が定着する（コルサコフ病）。特定の行為を思い出そうとして過去の記憶をたどると事実ではない記憶がそのまま記憶として定着されてしまうため妄想に拍車をかける。加えて、たびたび寝付けなくなり、妙に元気になる（躁病エピソード）。

学校とのトラブルが発生し、責任持てないから学校にくるなどと言われる。養護学校中学部への編入を余儀なくされる。普通学校への進学はできず、養護学校の高等部に進学。養護学校高等部から大学の進学はできないと言われる。養護学校には、進学コースと就職コースがあり、親が医師の指示で相談なく決定した。なお、就職コースとは福祉就労（作業所・就労支援事業所）への就職を意味する。

道を断たれた頃にNPO法人格のある市民団体を見つけてかかわるようになる。当該市民団体は福祉事業の予算が取れず、主宰していた方のモチベーションがさがっていた。そのため、インフォーマルな精神障害者の溜り場のように機能していた。仲間と出会い話しをする中で回復を経験する。4年後、当該NPOは事業指定を得た。その頃、当該NPOからのハラスメント（NPOのサイト上で私生活の暴露や誹謗）があり辞させられた。市役所などに訴えても信じてもらえなかったが、当事者団体である全国「精神病」者集団だけは全面的に信じて味方してくれた。この経験からピアアドボケイトが必要だと思ひ至り、NPOを立ちあげて非自発的入院で家族も主治医も誰もが退院に反対しているけど本人は退院したい人の地域移行支援を青森で開始した。案の定、難航するが、人間の意識の問題以上に精神保健福祉法という法律の壁を強く感じたため、2009年頃から精神保健福祉法の解体に本格的に取り組むようになった。

関口明彦

1952年12月生まれ。母は保健師、父は大企業の社員。父は満州で抑留され最後の船で帰国したので母とは年齢が離れていた。父の仕事の関係で、地方で小学校3年まで過ごした。私立中高一貫男子校に進み、大学はとりあえず上智大物理学科に入学。その後も受験を繰り返すが、今思えばその頃の発症。母の勧めで土井健郎の精神療法を受ける。大学間交流促進会議に関わり、その縁で知った日本カウンセリングアカデミーに通った。韓国民主化国際連帯委員会、日本はこれでいいのか市民連合などで活動し幾つかの選挙運動にも関わる。その後、新聞記者やプレイボーイの記者らと共に文化交流団の1員として訪朝もした。鬱状態の時に紹介された「思想の科学」関係者の精神科医に薬物療法を受け、躁転して強制入院。4回の入院歴あり。籍を置いた大学は合計4つ。2001年に最終退院して精神障害者運動に加わり、障害者権利条約の作成に関与した。障害者制度改革推進会議および内閣府障害者政策委員会の委員を務める。現在 全国「精神病」者集団共同代表、心神喪失者等医療観察法（予防拘禁法）を許すな！ネットワーク代表、日本病院・地域精神医学会理事、日本ピアスタッフ協会監事

依存症を病 気と理解し たふたつの キッカケ。

私は病気という理解 — 依存症 —

専門の医療機関への通院を開始して約1年が経過した頃、その間に医師から自らが依存症であることや、その原因と治療等について多くを教えて頂くも、全ての7割程度しか理解をすることが出来ずにいましたが、依存症の回復施設への通所を始め、同じ病気を抱えた仲間と共にプログラムを受けたお陰で、私は理解出来なかった残りの部分を理解することが出来ました。

そのひとつが「依存症は病気である」という事実です。

この事実を理解するキッカケを与えてくれたのは、同じ施設を利用する仲間の1人の若者でした。その彼は、誰でも簡単に購入できる市販薬への依存に苦しんでいました。当時の私を含め、世間では「強い依存性のある麻薬を使用するから、やめられなくなるのだ」と認識がなされています。

しかし、私は日々苦しむ彼の姿を見ていて「依存症の根本的な問題は、依存する対象物ではないのでは？」という疑問を抱き始め、そして、この疑問はプログラムによって、度々、自分に重ね合わせ、過去を振り返り、自らを見つめ直す機会を与えられたことで、その半生の記憶と、医師の話が一致して、ようやく「依存症は病気なのだ」と理解することが出来ました。

また、それは同時に「自分は覚醒剤を使う前から、ある病気に陥っていた」のだと気付きました。

私は18歳ごろ興味本位で覚せい剤を使ったことがあります。しかし、その後には常用することも依存する事はありませんでした。これは、なぜなのでしょう？ きっと当時の私は心が満たされており、精神的に平穏であったからなのです。その一方、議員になった私は目の前の仕事に全力を出し切る事にしか関心がなく、その為に睡眠を抑制して集中力の高まる便利な薬として覚せい剤の使用を選択して、すぐに、簡単に、あっという間に依存してしまいました。

これは、私という同じ人間が、覚せい剤という同じ物質を摂取しても、依存症の発症には違いがあることを示しています。つまり、依存症が発症した当時の私には十数年間に渡り蓄積されて続けてきた大きな強迫観念があり、覚せい剤の使用前に精神疾患状態にあったのだということに気がつきました。

細川慎一

2016年、私は議員でありながら覚せい剤の所持・使用で有罪判決となりました。

その後は、失意の底で俯き生活する日々が続きましたが、家族・友人・仲間の支えがあり、今では前を向いて歩み始める事が出来ていますが、未だに拭えない強い後悔があります。

それは、議員在職中に依存症という病気を知る事も、この現実に関心を寄せる事も出来なかったことです。



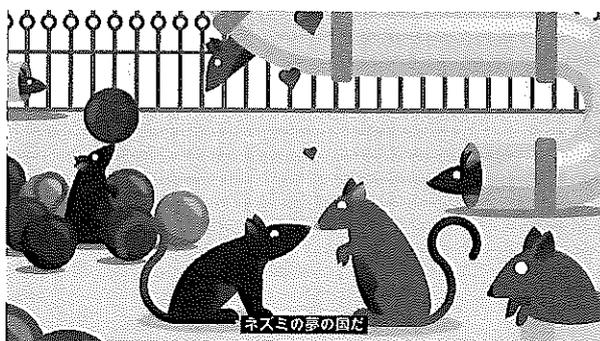
ですから現在では、依存症を知る仲間の一人として、この病気に対する誤解・偏見・差別が無くなる事を願い、啓発活動をさせて頂いています。

ラットを1匹だけ入れた普通の実験用ケージと、普通のケージの200倍の広さの中に十分な食料とホイールやボールなどの遊び場所とつがいのための場所などもある中に雌雄のラットを16-20匹入れた

「ラットパーク」を用意した。それぞれ、普通の水とモルヒネ入りの水を用意し、モルヒネを混ぜた水は苦いので砂糖を混ぜて甘くした。実験用ケージのラットは砂糖が少なくてもモルヒネ入りの水を好んで飲むようになった。ラットパークのラットはどんなに砂糖を入れてもモルヒネ入りの水を嫌がった。実験用ケージではモルヒネに依存性を示すようになったラットも、ラットパークに移すと普通の水を飲むようになった。実験用ケージで長期間も強制的にモルヒネ入りの水を飲まされ中毒の状態になったラットは、ラットパークに移されるとけいれんなどの軽い離脱症状を見せたが、普通の水を飲むようになった。この実験は、麻薬依存症の原因は麻薬の依存性よりも環境であることを示唆するものであった。

(wikipedia : ラットパーク実験より引用)

ラットパーク実験

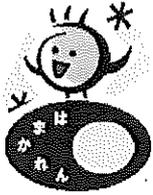


<https://www.youtube.com/watch?v=ao8L-OnSYzg>

分かりやすく動画で紹介されています。↓検索してみてください

依存症への正しい認識を持とう 🔍

youtube addiction 🔍



NPO法人 横浜市精神障害者家族連合会

所在地 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1725 番地
 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
 電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836
 URL <http://hamakaren.jp/>

横浜市内の精神障害者の家族と、市内18区の家族会の連合体です。昭和54年に発足し、平成22年にNPO法人となりました。精神保健福祉の向上を目指し、「支え合い」「学びあい」「働きかける」ことをモットーに、家族力を生かした活動をしています。

【主な事業】

1. 精神保健福祉の普及啓発活動

I 市民精神保健福祉フォーラム（ブロック別フォーラム）

市内18区の家族会が、市内の4地域で年3回ずつ開催している市民向けのフォーラムです。医療・福祉の専門家や当事者・家族による後援会・映画・シンポジウムなどにより精神障害に対する理解を促す地域イベントです。横浜市や各区行政の協力も得ています

II 市民メンタルヘルス講座

“みんなで考えよう こころの健康”をテーマにし、市民と共にこころの健康の大切さと、障害のある人もない人も共生する社会について、共に学ぶ講座です。年に2回開催しています。

III 浜家連研修会

“家族で学び合い”をテーマに、専門家の先生をお呼びしてお話を聞く講座です。年5回開催しています。

IV 家族による家族学習会

家族だけの小グループで行なう体系的なプログラムで、5回シリーズで行ないます。同じ立場の家族が「担当者」となって運営します。横浜市内各地で年4回実施しています。

2. 医療と福祉の制度・施策の向上を図る事業

精神障害者が障害を持っていても安心して自立した日常生活を営むことができるよう、精神保健の行政施策に関して提言・要望などを行っています。また、地域の福祉施設や事業団体・関連団体と協力して、障害者の自立活動支援活動を行っています。

3. その他の事業

- 地域支援活動支援センター（金沢区 青いとり作業所、神奈川区 わかば工芸）の運営。
- 相談支援：横浜市障害者社会参加推進センターのピア相談事業に協力。
- 障害年金に関する相談。
- 「横浜市精神保健福祉の案内」の発行（年1回改訂版）
- 機関紙：毎月1回浜家連ニュースの発行

第二回神奈川ピアまつり資料

さいたま市精神障害者もくせい家族会

小山 美枝子

○ 自己紹介

- ・北海道旭川市に育ち、教育課程を学び、小学校教諭、幼稚園教諭を経験
(自分の人生において精神の病とは、無縁で送れるものと思っていた)
- ・昭和 62 年国鉄が民営化 (JR に)、主人の広域移動の為、年子の息子たち (5 年生、4 年生) を
伴い、さいたま市に移住、現在に至る
- ・6 年程前 (平成 24 年 10 月頃) もくせい家族会に入会
- ・現在も自宅前の保育所に保育士として在籍

○ 当事者 (長男現在 41 才)

- ・今から 28 年程前から家庭内暴力、高校中退、20 才で精神分裂病 (統合失調用) と診断される
- ・20 才~30 才の 10 年間は病状が定まらず、7 回の入退院を繰り返す、身体拘束の経験も数回
- ・その後、人生に危機を感じ心機一転、猛勉強の結果、34 才で芝浦工業大入学、38 才で新社会
人へ、現在サラリーマン 4 年目に~
- ・国家資格 3 個目に挑戦中

○ 家族会活動

- ・家族会入会 2 年目 (家族会とは?) 何も分からないまま会長へ、現在 4 年目を迎える
- ・埼玉県精神障害者家族会連合会、さいたま市精神障害者家族会連絡会、さいたま市障害者協議
会 各理事兼任
- ・家族会活動を通し、精神障害者の生きづらさを目の当たりにし、少しでも社会、支援者に理解
していただける様、自分なりに出来ることから~息子共々、隠さない生き方を実行

○ ピアの方々へ

- ・それぞれ病気や障害の状態は違っていても、病に出会ったことは、人生において予想もしない
アクシデントには違いない、しかしそれを乗り越え自分の人生を取り戻した人、これから取り
戻そうとしている人、病の真ただ中にいる人も、大切な社会の一員ある事を忘れないでほし
い
- ・人として尊重され、幸せに生きる権利がある事を再確認してほしい (義務も伴うが・・・)
- ・生きて行く上での力量を養い、その人らしく悔いのない人生を送ってほしい・・・それが家族の
願いです

以上

第2回神奈川ピアまつり

リレートーク資料

上智大学社会福祉学科 3年

横山紗重耶（よこやま・さあや）

小学生の頃に精神保健福祉に出会い、メンタルヘルスを専門にする面白さに魅せられ、中学3年生のときに精神保健福祉士を志しました。

それからは地域活動支援センターなどでボランティアをするなかで、精神保健福祉の支援においては食事が重要な役割を果たしていると考え、メンタルヘルスと食の関心に興味を持ちました。高校1年生のときに調理師免許を取得し、精神障害者が暮らすグループホームで夕食を作るアルバイトを始め、現在でも続けています。私自身、他者との信頼関係を築くことが苦手であると感じているのですが、食事を通して他者と関わることで不思議と自然に会話ができるということをもっと体験し、ますます心と食の関心に惹かれました。

一方大学では、障害者から見た健常者について、および「健常者性」について研究しています。「障害者」というくくりが社会によって作られたものであるとしたら、いったい「健常者」とは何者であるのかが明らかにされなくてはならないと考え、この研究テーマを設定いたしました。

一般的に語られている「障害者の問題」とは、決して文字通り障害者の問題なのではなく、健常者による障害者の捉え方の問題なのではないでしょうか。現在の社会システムのほとんどは健常者目線で作られており、障害を持ちながら暮らすことが考慮されていないことが問題なのです。そこで、障害を持ちながら暮らすことについての語り部として、ピアサポーターが重要な役割を担っているのではないかと考えているのですが、詳しくは直接説明できればと思います！

ところで現在、共同研究者を大募集中です！

私の研究内容にご興味のある方、ぜひ名刺交換をしましょう。

お待ちしております！

【自己紹介】

淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科 4 年鴨下実佳です。

私が精神保健福祉士を目指そうと思ったきっかけは、高校時代に精神障がいを抱えた友人の相談に乗った際に、相談相手があまりいないことや、家族に対しても気を遣い、迷惑をかけてしまって申し訳ないという思いを抱えていると知ったことです。そのとき、気軽に病気のことを相談できる相手がいらないのは、精神障がいへの偏見や考えが世間に多いことが原因なのではないかと感じ、精神障がいや悩んでいる人たちの力になれる仕事はないのかと調べた結果、精神保健福祉士という資格を見つけ、この仕事がしたいと思いました。将来は精神科病院で働きたいと考えています。

【今学んでいること】

・セルフスティグマの研究

私の卒業レポートの研究テーマは「精神障がい者の抱えるセルフスティグマについて」です。授業でセルフスティグマについて触れ、社会からの偏見や差別的な態度を受けるスティグマというものだけでなく、自分自身に対する偏見もあるのだと知りもっと深く学びたいと思いました。また、精神障がい者が社会的偏見だけでなく、自分自身に対する偏見と言われるセルフスティグマにも困難を抱える人がいることを地域で暮らす人々をはじめ社会全体に知ってほしいという思いもあります。

・シャロームの家の見学、交流会 ～会うことの大切さ～

この3月にシャロームの家をはじめとする事業所の見学と交流会をさせていただき、当事者の方と実際に会うこと、話してみるものの大切さを学びました。大学で学ぶだけでは、知ることのできない当事者の方の思いや考えを直接聞くことができ、専門知識だけが支援につながるわけではないこと、「人対人」の支援には相手に対する敬意、態度がとても大切であることを改めてシャロームの皆様にご教壇いただきました。支援者を目指す私に限らず、障がいを抱える方に対し、自分のイメージや想像だけで決めつけるのではなく“実際に会ってみる”、“関わってみる”ことがもっと社会には必要なのではないかと感じました。

・ピアスタッフについて思うこと

シャロームの家での交流会でピアスタッフの方から話を聞き、ピアだからこそ薬の副作用・服薬管理の大変さや利用者の方の思いにも共感したり理解することができるのだろうと感じました。また、ピアスタッフという立場だからこそ利用者が話せることや話そうと思えることがあるのだろうと感じ、ピアスタッフの存在はいつか自分も病状が回復したらこんな風になりたいと利用者の希望にもつながるのではないかと考えました。私は、ピアスタッフのことを大学で初めて知ったので、もっと世間一般の方たちに知ってもらうためにも、社会や地域にピアスタッフと身近に交流できる機会があるといいのではないかと考えています。

はじめまして。魚岸です。この度は、ピア祭りにお声掛けをいただきまして、誠にありがとうございます。私は現在、神奈川県横浜市内の精神科病院で作業療法士として働かせて頂いております。そして、作業療法のプログラムを通して、当院に入院されている方々と地域で暮らすピアの皆さんとの交流を図る試みを数年前から実施させていただいております。一緒にお茶しながら語らったり、一緒に野球をしたり、仕事の話、暮らしの話、お金の話、いろんな話。共に居ることを通して、入院されている方々にも少しずつ変化が起きていることを側から観ていて実感しています。実際に退院へ結びついた方や、入院中から B 型事業所へ通い始めた方もいらっしゃいます。

ピアには、人を動かす力が有ります。共生社会の一翼を担っていると思います。私はこれからも、ピア同士が交流できる場を作り、皆さんと一緒に退院支援をしていけることを心より想っています。これからも様々なシチュエーションで、太く長く、よろしく願いいたします。

それでは括りに詩をひとつ。

「キミと居るから」

キミの気持ちを慮って 少し距離を手繰り寄せてみた
 そっと大胆に身を寄せるキミに 倍音のノックは 温かいままに混ざり合う
 歩幅を揃えるフリをして ただ居られたら それでいい
 そんな想いを 両側から中心に集めてく
 あとは一緒に 時々留まって そんな夜を 過ごせたらいい
 必要な？って 当たり前だよ そんなの
 キミと居るこの部屋で 僕も一部に なりたがってる

魚岸 実弦

横浜舞岡病院 作業療法室 主任

横浜 CBT に集う会 事務局長

ひゃくご縁 主宰

街場の作業療法 代表

一般社団法人 日本作業療法士協会 認定作業療法士 及び 代議員

神奈川県立保健福祉大学 大学院 保健福祉学研究科 リハビリテーション領域 在学中

研究テーマ: ピアサポートを行うことによるピアサポーター自身に与える影響に関する
 探索的検討

海辺の街で、妻と息子、時々ポメラニアン

育児に励みながら、週末は 30 キロ走

人生のテーマは、ひとしく生きること

ピアスタッフ(YPS)との出会いが変えたもの

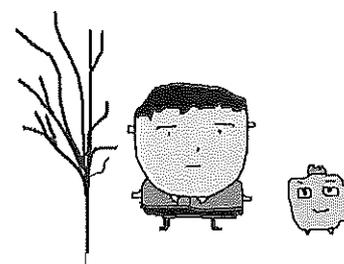
藤沢病院デイケア 作業療法士 西前英紀

ピア祭り開催おめでとうございます。

私は今年で3回目の参加になります。

毎年この日が来るのをとって楽しみにしています。

第1回目、参加したときは本当に衝撃でした。



堀合悠一郎作

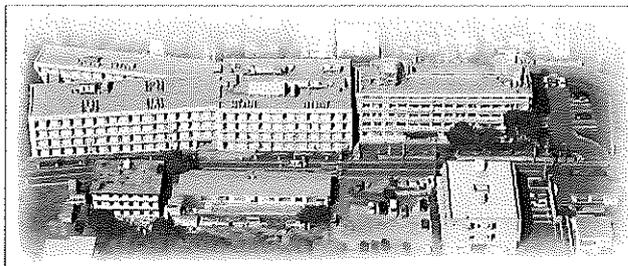
会場はいっぱい、当事者の熱気はむんむん、シンポジストは語る語る、司会は上手に回す、笑いあり、涙あり、普通の研修では味わえない新たな価値観が自分に芽生えたことを思い出します。その後、「井の中のかわずには、なりたくない」という思いもあり、ピアスタッフの皆さんとどんどん関わろうと決意しました。ピアスタッフの方には、あらゆる勉強会に来てもらい、自分では、伝えきれない生の声を大切にすることをもっとうに(あとは常に丸投げですが・・・)依頼しました。前向きで断らない姿勢やその場、その場に対応してくれる、ピアスタッフ幅の広さや横のつながり、ここでも多くのことを学ばせてもらいました。

今では、ご一緒させてもらう活動も広がり、デイケアバンドも音楽活動に誘っていただき、メンバーが自分のリカバリーに向きあう貴重な機会をいただいています。これからもどんなつながりをピアスタッフの皆さんと持てるかとても楽しみです。PS 悩み多き支援者のサポートもぜひお願いします

「新しい視点で、柔軟に、楽しく！！」

今後の活動にムッチャ期待してます。

当院の紹介



• 公益財団法人 紫雲会 横浜病院

• 理念：生きる勇気と希望を患者様とともに分かち合い、信頼に答える精神科医療を展開します。

• 診療科目：精神科 内科（知的障害者対応専門外来）

• 病床数：252床（急性期 精神一般 療養）

• 同法人施設：ゆかり荘(生活訓練施設)

中区生活支援センター

緑区生活支援センター

ふじハイツ(グループホーム)

当院はベイブリッジやみなとみらいを一望する高台にあります。

神奈川県最初の精神科病院として明治42年に開設して以来100年余り、法人施設や地域ネットワークを構築しながら自立支援を中心とした社会復帰支援に力を注いできました。

最新の知見に基づく医療技術とふれあいのある心、この二つを両輪としてこれからも職員一丸となり、患者様とご家族が安心して治療を受けられるよう環境を整え、地域の精神科医療・福祉サービスを提供していきたいと考えています。

本日は、訪問看護師4名、精神保健福祉士1名、作業療法士9名で参加させていただいています。

院内でのプログラムでは、生活支援センターやピアサポーターの方々、地域活動支援センターやメンバーの方々と、院内医療の活性化を図り、退院支援に力を入れています。そして、医療と福祉の橋渡しに、微力ながら出来るよう努めています。

今後、より活気のある、地域からも元気の良さが伝わる病院としていきたいと考えています。宜しく願いいたします！ ピアバンザイ(/・ω・)/

リビング ダンス パーティVol.3

■ Special Guest

ライブ & NEX 絵本読み聞かせ ... SATSUKI (ex. Zoo)
澤田浩史 (ベース)
加瀬田 聡 (パーカッション)

■ DANCE SHOW ... STEP IN THE LIFE
Soul Impression

■ Special DANCE SHOW

... EIJI & HIROSHI & MASUMI



SATSUKI (ex. Zoo)

横浜発!!

ヨコハマアーティスト

江原 顕



共生プロモーター、社会福祉士。
社会がもたらす障害をなくしたい。
役所に勤務し障害福祉に携わる。
K-POPをこよなく愛する。
山口出身。

tayeonagy (タヨナジー)

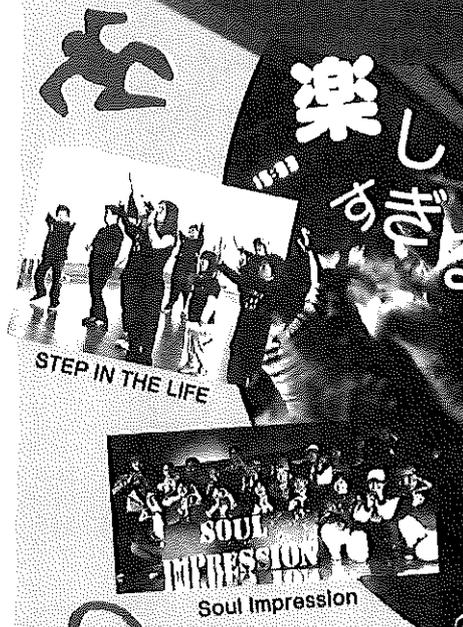
What's tayeonagy?

まちぶくの田中博士、共生プロモーターの江原顕、リビングアートネットワークの今井寿也の3人が結成した企画集団。
障害者と健常者がタヨナジ(当たり前、普通)と一緒に暮らせる社会を実現するために、あらゆる偏見や差別を取り除き、誰もが分け隔てなく楽しめるイベントを企画。只今、一緒に活動できるメンバーを募集中。



EIJI & HIROSHI & MASUMI

2017年
12月17日
(日)
OPEN 13:30
START 14:00



会場：横浜にぎわい座のげシャレ

横浜市中区野毛町 3-110-1 TEL: 045-231-2526

JR 線・市営地下鉄線「桜木町」駅下車 徒歩 3分
「野毛ちかみち」南1番口より 80m
京浜急行線「日ノ出町」駅下車 徒歩 7分
みなとみらい線「馬車道」駅下車 徒歩 12分

入場料：500円 (小学生以下無料)

過去に開催したイベントの
チラシです



出店者 募集中!!

出店ブース有り 1ブース 2m x 2m
出店料：無料 条件：当イベントに興味のある方
詳しくはお問い合わせ下さい!!

主催：リビングアートネットワーク

共催：tayeonagy (タヨナジー)

協賛：ぜんち共済(株) / NPO法人ヘンデコ怪獣企画室 / (株)CFP / BAR Prima / 香港路的沙龍

協力：神奈川県中小企業家同友会ダイバーシティ委員会 / チームコブラ / (株)まちぶく / 長者スタジオ

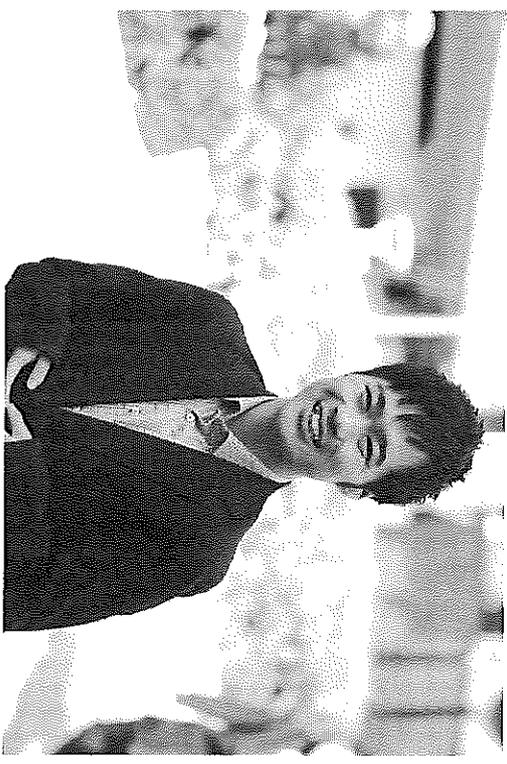
横浜市地域文化サポート事業・
ヨコハマアートサイト 2017
助成事業

ヨコハマ
アートサイト

昆野 祐太 (こんの ゆうた)

神奈川県川崎市出身。遺伝子の疾患で先天性の上肢障害を持って生まれる
(身体障害者手帳2級)

幼少より保健師や作業療法士の方など福祉職の方に助けをいただき、
社会生活ができるようになったが、成人になり、それが当たり前でなく、
自分が幸運だったということに課題を感じ、新卒でLITALICOに入社。
現場で直接支援、管理業務を実施。現在は新規事業開発を担当。
技術を使って、当事者の方の生きづらさを解決したい。



--	--	--	--	--

「障害のない社会」に向け直接支援やプラットフォームづくりを実施



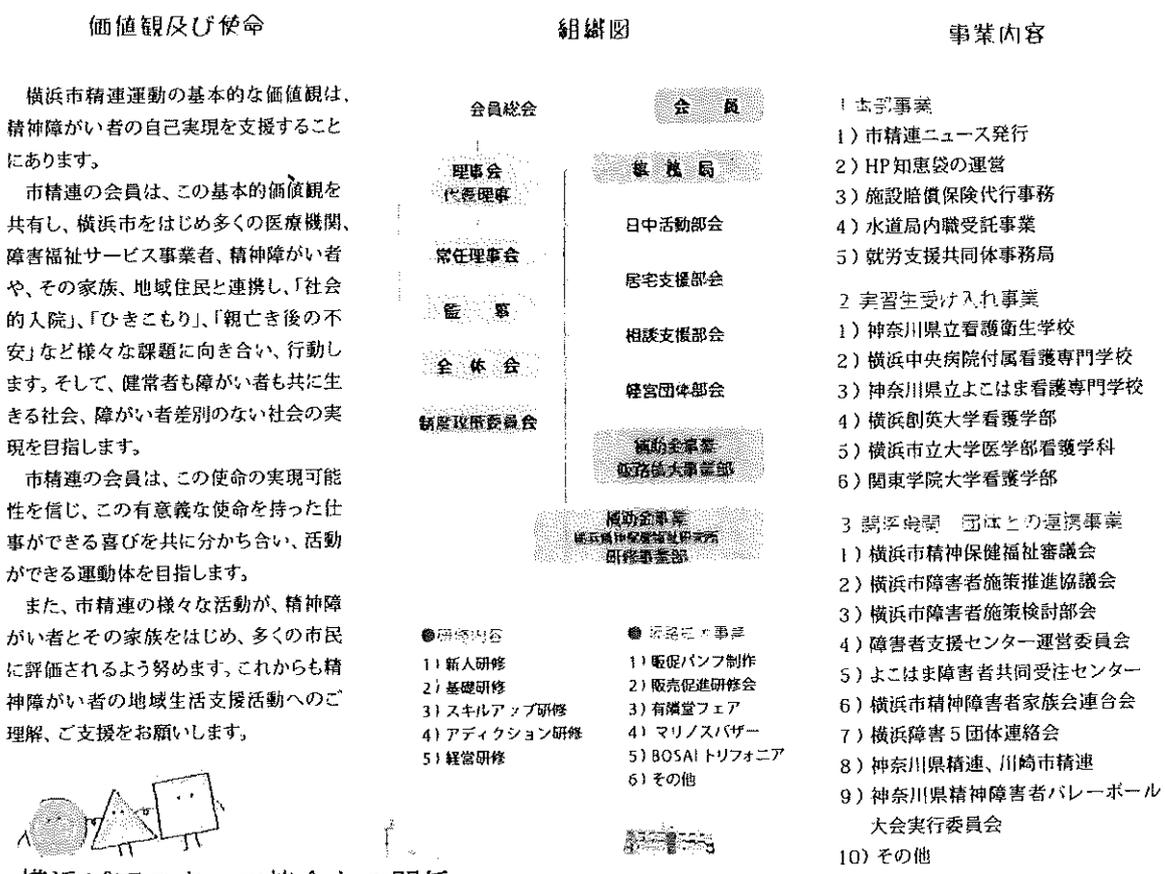
第2回 神奈川ピアまつり! リレートーク資料

1、大友勝 プロフィール

1947年生まれ、宮城県出身、現在、社会福祉法人恵友会顧問、NPO法人横浜市精神障害者地域生活支援連合会(略称、横浜市精)代表、横浜市精神保健福祉審議会委員、他

2、横浜市精連の概略

1987年6月設立、2000NPO法人取得、障害者福祉サービス事業所、地域活動支援センター、就労継続支援事業所、精神障害者グループホーム、生活支援センター等 170事業所の会員で構成、年間 22,600,000 円。当会の活動理念である、「街の中へ、人の中で」の実現を目指し、多角的な運動を展開している。



3、横浜ピアスタッフ協会との関係

当会研修事業部の研修スタッフとして参加。3年前からは、リカバリーパレード横浜の実行委員会のメンバーとして共同活動。「らい予防法」廃止の歴史、旧優性保護法下の断種に関する訴訟、障害者権利条約を持ち出すまでもなく、当事者運動は極めて重要。障害者が回復できる街、ヨコハマを目指し共に運動を進めていきたいと考えている。



杉浦寛奈

東京大学大学院医学系研究科精神保健学 博士課程学生
寿町勤労者福祉協会診療所 精神科 非常勤医師

この度は「第二回神奈川ピアまつり」の開催おめでとうございます。また、リレートークへお招き頂きましてありがとうございます。

「全ての人があるらしく過ごせる」は重要だと考えており、精神症状がある人らしさを振り回しているのであればその症状との上手な付き合い方を一緒に探したいと取り組んで参りましたし、例えば大勢の人が使える予防法や対策があればそれを広めたいと取り組んで参りました。これらから、臨床医としてまた公衆衛生医師として、国内外の診療所から国際機関などで勤務し幅広い仕事をいたしました。

「この入院は患者さんの役に立っているのだろうか？」「もっと快適な治療法はないだろうか？」と常々考えており、特に隔離、拘束、強制入院は私の疑問の対象でした。その折にYPS横浜が主催の隔離と拘束を検討する会に出席し、活発な当事者の声を聞きました。そこから発展し、現在はYPSのご協力を得ながら「強制入院中の方（及びその家族、医師）に経験・感想を当事者がインタビューする」という研究を行っております。これまで横浜・東京・インドで行っておりますが、当事者の視点を通じて、当事者を取り巻くものや当事者の苦勞や希望が見えて参りました。診療や精神保健サービス設計を担当する医師の視点のみで見えない当事者の生の声が見えてまいりました。これをまとめて当事者にも医療者にも使える情報として、当事者活動の活発化や精神保健サービスの向上に使えるものとしたいと考えております。

この当事者の声は非常に重要で、今回のピアまつりの場は正にその結晶であると思います。当事者の真の声が聞けて、当事者の共感を共有でき、関わる全ての人が希望を持てる会合になることを期待しております。リレートークで何かを皆様にお裾分けできればと思いますし、私も皆様から多くを学ぶことを期待しております。

神奈川ピアまつりの益々の発展を祈念しております。

青山浩平
NHK ディレクター

週刊誌のグラビア担当に憧れていたものの、なんの因果か番組を作るようになって十何年。震災、貧困、労働問題などから、巡りめぐって精神障害をテーマによく取材をするようになりました。

普段作っているのは「バリバラ」という番組。勝手にマイノリティの百姓一揆を目指してます。

ちなみにYPSのピアのフラット感、超心地良いです！！コメ食わせ！！！！

荒井拓（NHKディレクター）

自己紹介：

NHKで番組をつくる仕事をしています。今年厄年で、インフルエンザと肺炎を併発したり、自転車に乗っていたら鳥のフンが2回も絶妙に頭にヒットしてきたり、盛りだくさんの日々を過ごしています。

今はハートネットTVという番組を製作しています。精神疾患について取材する機会も多く、その過程でシャロームを紹介されてから、何度も通うことになりました。最初は、身体拘束やピアについての取材などでしたが、そのうちイベントに1参加者として行くことも増えていきます。撮影では一度も伺ったことはありません。懇親会には何度も・・・。



活動紹介：

現在作っている番組は、ハートネットTV（Eテレ/月～木夜8時～）です。

4月から性教育についてシリーズで番組を作っています。また優生保護法について6/5に放送しました。身体拘束や障害者の監禁についても今取材をしています。また360度VRで、いろんな人と一緒に過ごしてみるという「A day of・・・」というシリーズで、薬物依存症の田代まさしさん、べてるの家、ホームレス状態の方、ALSの広告プランナーなどを360度撮影しています。田代さんはyoutube、それ以外はNHKVRのホームページや、ハートネットTVのフェイスブックのページで見られますので、是非ご覧下さい！

ピアとのかかわり、思うこと：

精神疾患についての取材をする中で、様々なピアの方に接する機会を得てきました。

ピアといっても、ひとくくりにはできない多彩な形があると思います。その捉えられ方がもっと広がれば、いいなあと思います。そのためには、取材をするメディアの側が、ピア、精神疾患、障害などを特別視しないということがとても重要だなと思います。

シャロームの家に行くと、急にネタをふられたり、面白いことを言えないと「いまいち・・・」という空気が流れたりするあたり、こちら側を特別扱いしない感じが、とても居心地よく、その垣根を向こうから崩してくれるので、多くのメディアの人間がシャロームで洗礼をあげるのがいいのではないかと思います。

私の「ピアサポート」との出会い、つながり、そして今



種田綾乃(神奈川県立保健福祉大学/国立精神・神経医療研究センター)

この春より、私は、自分の母校でもある大学で働き始めました。私にとって、「母校」は、当時、多くの苦悩を重ねた場でもあるとともに、「ピアサポート」の感覚に出会うきっかけを得た場でもあります。大学時代、生きづらさや居場所のなさを抱えて苦悩し、自分を救う模索の旅の中でたどりついたのが、北海道浦河町にある「浦河べてるの家」でした。浦河教会の旧会堂でメンバーの方々とは過ごした夏、自分が安心していられる感覚、自分の中にある様々なとらわれから解放される瞬間がそこにはありました。

べてるの家との出会いをきっかけに、大学院に進み、浦河町をフィールドとして「地域の声」を聴くための研究活動を行いました。共同住居でメンバーの方と一緒に生活をさせていただいた時間、大量のアンケートを配り歩いた日々、住民の方一人一人の声に向き合った日々・様々な「当事者」のそばに行き、声を聴く中で、何よりも私自身が救われ支えられている感覚がありました。「研究」を通し、様々な人と出会い、つながり、そして広がっていく感覚、自分を待っていてくれる人の存在を感じ、「私はいてもいいんだ」、「私だからできることもあるんだ」という感覚を、はじめて感じた時間でした。その後も、自分を見失いそうになる度に浦河を訪れ、変わらずに迎え入れてくれる住民の方々に支えられ、自分を取り戻してきました。今の私にとっても、第二の故郷です。

また、同じ時期に、自立生活センターで介助のバイトを通じて出会った、脳性麻痺を抱えるOさんの存在は、私にとって大きな衝撃であり、希望であり、心の支えでもありました。私自身、支援者(介助者)でありながら精神的に支えられている感じは、ピアサポートにもつながる経験の一つでもあると思っています。

大学院卒業後は、東京にある研究所で研究員として、地域精神科医療に関する研究や併設する病院の精神科デイケアでの支援に携わりました。職場で何気なく飛び交う言葉に傷つき、揺らぎ、自分の立ち位置を模索していたとき、自分を救ってくれたものがWRAP(元気回復行動プラン)との出会いであり、さらに、ピアスタッフとの出会いでした。デイケアでWRAPプログラムを担当することになり、ファシリテーター研修で出会った人々の中には、今もつながりつづけている親友もいます。

また、ピアスタッフとの出会いは、私にとって、職場の中での大きな支えであり、同じ思いを共有できる「仲間」を得た感覚でもありました。ピアスタッフとともに、仕事内外で、様々な夢や苦勞をわかち合い、共に活動や研究を行った時間、現実的な苦悩も困難もたくさんありましたが、ふりかえれば、それ以上のよるこびや希望がありました。そして、ピアスタッフとの出会いをきっかけに、研究所では、ピアサポートに関連する様々な研究(精神科医療機関での共同意思決定の研究、ピアスタッフの効果検証のための研究、ピアサポートの専門性を高めるための研修に関する研究など)にも携わらせていただけてきました。

職場を移った今も、ひきつづき、これらの研究に関わらせていただきながら、精神科医療機関でのピアスタッフ・ピアサポーターの実態に関する研究活動を、かつて同じ職場で働いていたピアスタッフの友人とともに進めています。昨年度は、医療機関で働くピアスタッフ・ピアサポーターのグループを持たせていただき、たくさんの言葉が生まれました。これからも、精神科医療機関でのピアスタッフ・ピアサポーターの可能性や課題を整理しながら、あたたかいつながりをつくっていききたいと考えています。

ふりかえると、様々な模索の道のりの中に、たくさんの出会いがあり、一つ一つの出会いがつながりあって、今の私があります。「障がい」の有無に限らずに、安心できるあたたかなつながりや、人と人との対等な関係性、支え支えられるような関係性に、私は、これまでにも、今も、多くの場面で救われ支えられてきました。ピアサポートは、きっと、人が本質的な部分でつながりあえる感覚であり、それは、人と人とをつなげ、さらにつながりを広げ、地域や社会を支える力となっていくものでもあると、私は信じています。

そして私は今、自分自身の母校で、ある意味、「ピア」的な存在でもある学生(後輩)の前に立ちながら、かつての13年前の自分に語りかけるように、今の私自身の姿をもって、希望を伝えつづけていきたいと思っています。私自身にとっての大切な「原点」で、私自身の生まれ育ったここ神奈川県で、私の経験やつながりの延長で、できることから、希望を生み出す活動を行っていききたいと思っています。

「第二回ピアまつり」へのメッセージ

川崎市立看護短期大学講師 加藤博之

「第二回ピアまつり」の開催おめでとうございます。

私は、20代の頃から知的障害や身体障害を持つ方々と関わり、30代後半に精神に障害を持つ方々との付き合い方を学びたいと思い看護学校に入学し、卒業後5年間精神科急性期病棟で看護師として働きました。今は神奈川県川崎市にある看護学校で精神看護学の教員をしており、あわせて精神科における身体拘束の縮減について研究をしています。

ピアの方々には、授業に来て頂いたり、実習でご指導頂いたり、日頃から大変お世話になっています。今年度は、当事者（サービス利用者）と共有する医療・看護という考えのもと、シャロームの家で学生が看護研究発表会を実施させて頂く予定です。

ところで、最近つくづく思うのが、「医療職はなんて差別的なのか！」ということです。

医療職は自分たちの正当性ばかり主張し過ぎているように感じます。

「病識がない」「怠薬」という言葉を学生が結構簡単に口にすることがあり、心が痛みます。「精神に障害を持った人々と今まで出会ったことがない」と学生が恥ずかしげもなく発言するのに対して、「あなたが気付いていないだけで『精神に障害を持つこと』と自分の存在が全く無関係ということはありません」という話をしてしています。

もっとサービス利用者である当事者・ピアの方々の意見に耳を傾けるべきだと私は思います。

なぜなら医療職の多くが、幻覚妄想などの精神症状に苦しめられた経験も無ければ、向精神薬を飲んだことも無く、その向精神薬の辛い副作用を体験したことも無ければ、保護室に長時間入ったことも無く、身体拘束を長時間実施されたことも無いのですから。

「上から目線の医療」を少しでも変えていきたいと思っています。そのことが、誰に対しても安全、安心、安楽な社会の実現につながると信じています。

その実現のためのキーワードが「ピア」だと私はと思っています。

「誰でもピア」という思いと、「皆さんとのつながり」を大切にしていきたいと考えます。

これからもますます「ピアの力」を発揮して行ってください。

私は、奥原孝幸と申します。

作業療法士になって25年ほど経ちます。精神障害領域にだけ身を置きこまできました。精神科病院での作業療法（;OT、いわゆる精神科作業療法）、精神科デイケアでの作業療法士、その他作業所（今の地域活動支援センター）等で仕事をしたり関係したり、今は神奈川県立保健福祉大学リハビリテーション学科作業療法学専攻で作業療法士の養成をしています。いわゆる授業をしています。また週に1回ほど民間の精神科病院でOTのグループを実施したり、病棟でのOTも実施したりしています。

最近では認知行動療法（CBT）に興味をもち、「横浜CBTに集う会」という会を開催しています。週一回の精神科病院でのOTはCBTのグループです。最初は長期入院の入院者だけのグループでしたが、退院して外来通院でも参加している方も多く、退院に向けたピアの役割を担っていただいています。中には入退院を繰り返す方もいてどちらの経験も自身のリカバリーには重要だと教えてくださいます。

当事者同士という良い感覚は、これまでのOTの現場でも感じ意識してはいましたが、今の意識のレベルまでではありませんでした。CBTの勉強をしたり実践する中で、ピアの力の大きさを知り、実感しているところです。

ピアとの直接的なつながりは、横浜CBTに集う会に参加している魚岸さん（このリレートークにも参加している）がシャロームの家の方々につなげてくれました。今では毎回集う会に参加いただき、大学の授業にお越しいただき講義をしていただいたり、模擬患者役をしていただいています。そうそうこの模擬患者のような仕事を事業所の作業に入れた事業所があるといいなあと思います。作業にはいろんな仕事があつていいと思います。

ピア、ピアサポート、ピアスタッフは美しい夢のような希望の響きです。しかし、今の私にはキレイごとではなく重くて厳しいイメージがあります。今後はピアに手伝っていただくということではなく、ピアの力を支援チームに加えて、専門職メンバーとしてお互いに切磋琢磨していく必要があると思っています。だから、お互いにとって重くて厳しいと思うのです。ピアサポートやピアスタッフもボランティア的なこと、臨時的に働く場合から常勤として働く場合まで様々です。ピアサポートまではしたくないという方もいますし、でもピアの人たちの中にいたいという方もいます。さまざまな状況になかで様々な方がいます。利用する、利用される、利用させるという側面でも様々です。

ですから、今後はピアというものの整理が必要で、専門性を持ったピアスタッフの養成やピアを利用できるということをアナウンスしていく必要もあります。どんなピアになりたいかを選択できたり、こんなピアの人に来てほしいと私たちも求められるといいなあと思っています。そういう仕組みや社会を作っていきたいと思っています。

こんなにいっぱい書くと、小堀さんの「もうお、楽しくやろうよ！」という言葉が聞こえてくるようです。「楽しくやれば何かできてくるよ！！」と。

ホントにそう思います。祭りだ、祭りだ、ピア祭りだ！

奥原孝幸

蔭山正子（かげやま・まさこ）

大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生看護学教室・
准教授・保健師

YPSさんとしている研究活動

1. 本づくり

1) 1冊目が完成

YPS 横浜ピアスタッフ協会出版部と作成

「当事者が語る精神障がいとリカバリー

続・精神障がい者の家族への暴力という SOS」

2018年5月30日発売

2) 2冊目に取り組み中 テーマ：恋愛・結婚・育児

めんちゃれ、ポルケ（大田区当事者会）、HPKA（ハピカ）、YPS に所属する当事者の方と本づくりをしています。6月22日（金）夕方@シャローム港南。関心のある方お声掛けください。

3) 3冊目も作りたい

関心のある方は、YPS にご連絡ください。6月22日（金）夜にシャロームの家で検討します。

2. プログラム開発研究

1) 研究課題：「精神障害者の家庭内暴力解消に向けたインターネット学習プログラムの開発－障害者発のユーモア交えた動画－」（三菱財団助成研究）

2) メンバー：当事者（YPS）、家族（浜家連、埼家連）、その他

3) 内容：グループインタビュー、プログラム案の検討、一芸の動画

4) 次回の会議 6月22日（金）夜@シャロームの家 関心のある方どうぞ。

3. 統合失調症薬物治療ガイドの作成

「統合失調症薬物治療ガイドー患者さん・ご家族・支援者のために」の当事者メンバーとして YPS に協力してもらいました。このガイドはすでに完成しており、日本神経精神薬理学会のホームページから無料でダウンロードできます。書籍化も決まっております。

4. 講演会での共演

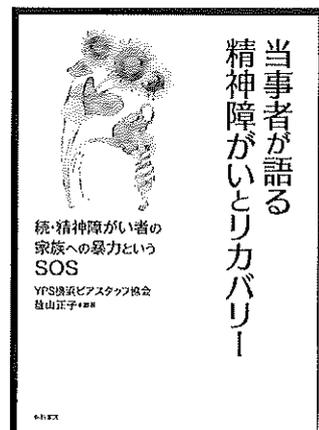
浜家連さんの依頼も受けています。

◎市民精神保健福祉フォーラム 2018.10.6(土)午後磯子公会堂

YPSさん以外に行っている主な研究活動

こどもびあ

精神疾患の親をもつ子どもの会（こどもびあ）（代表、坂本拓さん（横浜市））の運営をしています。私の所属教室は、こどもびあ大阪の事務局をしています。



2018.6.8. 神奈川ピアスマジリ リレートフ

ピアサポートってなんだろう？ ピアスタッフってなんだろう？

相川章子（聖学院大学）

今から20年ほど前、ピアスタッフ（当時は当事者スタッフと読んでいました）と地域生活支援センターを立ち上げ、ともに活動を始めました。頼りにしていたピアスタッフが来れなくなってしまったことをきっかけに、私のピアスタッフへの探求の旅が始まりました。

日米のピアスタッフの方約80名のインタビューを数年かけて実施。そこから多くのことを学び、気づき、また当時の有り様を猛省するに至りました。

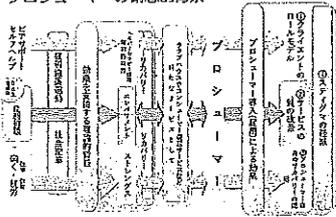
現在は、ピアサポートの価値、ピアスタッフの意義を多くの方と共有できるような講座の実施や、これらを言語化し可視化していきたく研究や活動を行なっています。

これまでの研究や、ピアスタッフとの出会いから色々な気づきを得ています。

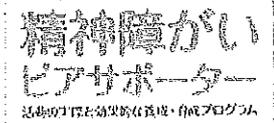
私たちの多くの悩みは人との関係性によるものです。

ピアサポートには、「支援するーされる」という固定化した関係性を柔軟化し、対等で自由で心地よい関係性を再構築していく力があります。それによりリカバリーの道を歩み始めます。その人と人を対等につなぐ接着剤が「経験の語り」。ピアスタッフは「経験の語り」を差し出すことによってそれを促進していく人々だと思っています。

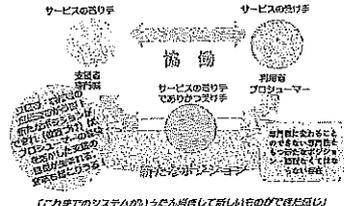
先行研究
プロシューマーの概念的背景



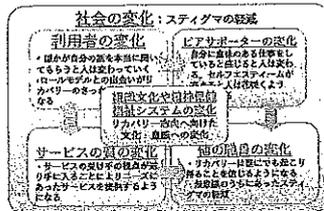
「経験」がある人とない人が手を結ぶ



ポジション分析による結果
新たなプロシューマーポジションの確立



ピアサポーターによる6つの変化の可能性



主な著書（ピアサポート・ピアスタッフ関係）

「北米におけるピアスペシャリストの動向と課題」（『ソーシャルワーク研究』第37巻第3号,2011）、「精神障がいピアサポーター」（中央法規出版,2012）、「連載リハビリテーション関係論第9-11回（『精神療法』第38巻第2-4号,2012）」、「障害者地域移行支援・地域定着支援ガイドブック、第2章1節2「地域移行支援・地域定着支援におけるピアサポーターの機能」（中央法規出版,2013）、「ピアスタッフの現在と未来ー日本の精神保健福祉の変革を目指してー」（『精神医療』74号,批評社,2014）、「Becoming a Consumer-Provider of Mental Health Services: Dialogical identity development in prosumers in the United States of America and Japan」（American Journal of Psychiatric Rehabilitation,20:2,2017）、「ピア文化とコミュニティ・インクルージョン」（科学評論社発行「精神科」Vol.31,2017）, など

主な活動（ピアサポート・ピアスタッフ関係）

ピアサポート講座（2012～埼玉、新潟、仙台等）、ピアサポーター養成講座（2012～埼玉、ほか）、その他ピアサポートやピアスタッフに関する研修等講師、日本ピアスタッフ協会（顧問・全国ピアスタッフの集い実行委員）、国際ピアサポーター協会理事（International Association of Peer Supporter）、 など